



# 東京学芸大学リポジトリ

Tokyo Gakugei University Repository

## MYPの取り組み その12 : COVID-19に伴う休校中のオンライン学習での実践 記録

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-07-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 久保, 達郎, 小林, 万純, 小松, 万姫, 澤田, 光穂子, スミス, ベン, 徳, 初美, 前田, 健士 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2309/00173375">http://hdl.handle.net/2309/00173375</a>

## MYP の取り組み その 12

### COVID-19 に伴う休校中のオンライン学習での実践記録

#### An Approach to MYP Part 12

#### Records of Online Teaching during the COVID-19 Pandemic School Closure

外国語科 久保 達郎 小林 万純 小松 万姫 澤田 光穂子  
スミス ベン 徳 初美 前田 健士

### はじめに

休校期間中でも「学びを止めない。」全国の学校が、どう対応するか、決断を迫られた。本校外国語科も例外ではない。授業時間内でのやりとりを重視し、コミュニケーションツールとしての言語習得を目指し実施してきた本校の学びを、この状況下でどのように実践できるか、試行錯誤することになった。

本校は中等教育学校のため、1年生から6年生（中学校1年生から高校3年生）までの授業を実施している。発達の段階による学習の習慣づけに対する多様性や、言語を既に活用できる帰国生と初めて言語を学習する生徒という、言語の習熟度の多様性など、様々な差が学年やクラスに存在する。それぞれの生徒にとってどのような方法が良いかを考えるのが課題だった。

また、本校ではインターネットやデバイスの環境を考慮した上で、すべての授業を双方向型のオンラインでの実践は難しいという結論に至った。テクノロジーの利点をどのように活用したのか、それらを実践していく上で明らかになった課題点も含めて、以下に述べたい。

これは、本校が休校期間中に実践したオンライン学習の実践記録である。

### 1. 休校期間中における外国語科の授業の取り組み（全体）

表1のように、それぞれの開講授業ごとに Microsoft Teams を作成した。動画やパワーポイントを課題とともに Teams 上で定期的に配信し、理解の確認を Forms のクイズなどで行った。

科目名	クラス	単元	使用テキスト	授業形態（学習機会の提供の仕方）	頻度	同期型オンライン授業	評価方法・材料について
英語	Core	Lesson 1/2 True Stories "Hawaiian Vacation" "The Birthday Present" "Anna's Choice" "Hold On, Joe" "A Problem with Monkeys"	教科書 問題集 自主作成教材	・授業毎に、資料とパワーポイント/動画を準備。生徒はパワーポイント/動画に沿って授業を進める。スライド内に、ビデオや音声、タイマー、ミニクイズなどを設置。 ・単元ごとに、formsでのクイズを実施。 ・授業に関する質問を随時受付&回答&共有	・週1~2回分の授業教材配信(演習まで含めて90分/1授業：授業時数相当) ・単元テスト	実施しない	・Formsで実施しているテストはほとんど自動計算だが、一部(文章で答えるものなど)は後から個別に採点して、生徒に提示している。 ・生徒が自主学習として学んだことを送ってきた場合も、個別にコメントや添削を行い、返している。
英語	Adv	澤田： Languages 504 Essential Words LS-7 Reading Log Chadwell: Digital Life, Copyrights and Wrongs, Feeling on Display, My Online Code, etc	問題集 自主作成教材	・Teams/Nearpod使用 ・授業毎に、資料と動画を準備。生徒は動画に沿って授業を進める。 ・Formsや動画内でのクイズを実施。 ・授業に関する質問を随時受付&回答&共有	・週1~2回分の授業教材配信	実施しない	・Formsで実施しているテストはほとんど自動計算だが、自分の意見を述べる課題などに関しては後日の動画配信でまとめてフィードバックを行っている。 ・Teamsの課題機能を使用し、提出課題には個別にコメントをフィードバックを行っている。 この学習内容をベースに授業再開後に評価課題実施予定
LE	Core	Project: Epidemic, Hidden Places	自主作成教材	・Teams使用 ・指定範囲と指示を元に、課題を各自進める	・月に1回指示をし、各自で進める	実施しない	この学習内容をベースに授業再開後に評価課題実施予定
LE	Adv	Reading Adventures 2 Unit 1-3 Project: Self-introduction Essay	教科書 自主作成教材	・Teams使用 ・指定範囲と指示を元に、課題を各自進める	・週に1回指示をし、各自で進める	実施しない	この学習内容をベースに授業再開後に評価課題実施予定

表1：外国語科のオンライン授業・課題一覧表（2学年の例）

## 2. 休校期間中における外国語科の授業実践例

ここから授業の実践内容説明と、オンライン上で使用した教材等のスクリーンショットを資料として提示する。

### (1) 1年英語 (Core クラス) 担当：澤田 光穂子

1年生は、まだ入学して間もなく、双方向でのオンライン授業を行うための手配が整っていなかったため、週2回の動画配信を行った。内容としては、アルファベット、自己紹介、Classroom English、曜日・日付・天気などの非常に基礎的な内容から始め、自粛期間が終わる頃には自分で好きな教科・スポーツ・動物などとその理由について自分で話せるための語彙や文法・フレーズを身に付けた。

動画は教員が説明を一方的に行うものではなく、実際に新しく学ぶ単語の発音練習をリズムに合わせて行ったり、復習のためのQ&Aを行ったりと、実際に生徒の声を聴くことが出来なくても、生徒の発話を促し、インタラクティブに学べる、Youtube動画やテレビ・ラジオ英会話のような形式をとった(図1参照)。また、映像だけでは一度に学ぶことが困難な単語等に関しては、必要に応じて補助プリントなどをオンラインで配布し、各自が手元で確認をしながら動画で練習・復習を可能にした。尚、動画での言語は基本的にはAll-Englishで行い、必要に応じて画面のみで日本語の意味や絵を補助的に使用することで、自粛期間終了後のAll-Englishの授業に備えた。



図1

尚、この「動画と補助教材の配信のみ」というスタイルは、意欲的な生徒には非常に効果的で、何度も動画を繰り返し見て発音練習が出来るメリットなどがあった。一方で、教員側としては生徒の進捗状況や理解度を把握することが困難なため、困った感を抱えている生徒や苦手意識のある生徒にとっては最適な方法とは言えないだろう。実際に自粛期間終了後には、全ての内容を再び復習し、生徒ごとの理解度を把握し、それぞれの差を埋める作業が必要であったため、(2)で述べるような双方向型の授業が可能となる動画配信の方がより理想的であると言える。

尚、この「動画と補助教材の配信のみ」というスタイルは、意欲的な生徒には非常に効果的で、何度も動画を繰り返し見て発音練習が出来るメリットなどがあった。一方で、教員側としては生徒の進捗状況や理解度を把握することが困難なため、困った感を抱えている生徒や苦手意識のある生徒にとっては最適な方法とは言えないだろう。実際に自粛期間終了後には、全ての内容を再び復習し、生徒ごとの理解度を把握し、それぞれの差を埋める作業が必要であったため、(2)で述べるような双方向型の授業が可能となる動画配信の方がより理想的であると言える。

### (2) 2年英語 (Advanced クラス) 担当：澤田 光穂子

2年生 Advanced クラスは、Microsoft Office の Teams を活用し、週2回の「授業」を行った。各「授業」は担当教員による動画配信、事前に購入済みの単語本の演習、そして Reading Log の3部構成となっており、事前に各週のスケジュールを提示することで、リアルタイムではなく、生徒がそれぞれの時間に合わせて、各授業1~2時間かけて行える形式とした。

尚、それぞれの部の最後に提出型の小課題を与えることで、生徒の進行状況を確認することを可能とした。例えば、単語本の演習は、原則各自で進めるが、各単元後に自動で答え合わせができる小テストを入れることで、生徒の回答率や進捗を確認した。また、休校終了後にペーパーテストも行った。Reading Log は毎週各自で興味のある記事を読み、それを要約し、感想を Forms で提出するという内容のもので、生徒の興味・関心を尊重しつつも、適度な英語のイ

ンプットを継続的に行わせる演習としては効果的であった。

動画配信の内容としては、“Languages and Us” というテーマで、クイズとオンラインディスカッションを活用した導入を始め、内容に関する Reading と Q&A、およびその解説、意見交換などを動画と Microsoft Office の Forms を併用する形で行った。具体的には、以下のプロセスで行った。

- ① 教員は活動の細やかな指示や説明を PPT と音声で行い、途中でタイマーなどを動画に埋め込むことで、動画を再生し、その指示に従うだけで授業が完結するような動画を配信する。また、必要な教材は PDF や Forms のリンクを通じて全てアクセス可能とする。
- ② 生徒が動画を通じて作業を行い、Reading 後、内容理解の質問等を各自 Forms で記入する。尚、内容理解などの単純な Q&A は選択肢を使い、自動で答え合わせが出来る形式にし、自身の意見を述べるようなオープン形式のものは、後日教員が一括で全てを確認する（図 2 参照）。
- ③ 教員が Forms の回答を確認し、生徒の理解度や考えを把握した後に、補足説明や生徒の意見の共有・フィードバックなどを盛り込んだ次の動画を配信する。
- ④ ①～③のプロセスを繰り返し、生徒は定期的に学んだことを Graphic Summary などにまとめ、提出することで、学んだ内容を復習する（図 3 参照）。

4. If learning a dominant language gives power to its speakers, should everyone in the world begin to speak a dominant language as their first language? Why or why not?	
27 Responses	
7	Yes, but I think that doesn't mean we will lose our original language and the culture. I think it is possible to learn both languages at the same time and at the same level. My friend was half Japanese, born in Canada, spoke the same level of Japanese and English. I am not expecting everybody on earth to do this, but fluent English speakers will definitely be beneficial to their countries by, for example, running a business outside of their country. It will be very convenient looking from the global perspective to have a certain number of English speakers.
8	I don't think I need to speak or speak. The reason is that some people don't feel anything when they speak the main language, while others feel joy. So, in a nutshell, it depends on the person.
9	No. It's not a necessity, and it's up to them.
10	although it might be a ones freedom to choose wich language they pick to learn but I think that the world will become a better place if everyone learns a dominant language. It will be easier to communicate, cooperate, and more.
11	I think so, because in that way, they can communicate to other countries in the world easier.

図 2

このような動画と Forms を併用した形式で「授業」を行うことで、動画配信でありがちな「教員が一方的に内容を教授する」ということを避け、生徒も自分自身の理解度を確認したり、意見のフィードバックを受けたりすることが可能となった。また、動画は自分のペースで一時停止や巻き戻しが可能なため、英語に苦手意識があり、集団では授業についていくことが困難な生徒でも、自分のペースで学習することが可能であった。



図 3

加えて、通常の対面式の授業だと Q&A の回答や意見は生徒がプリントなどに記入した回答を机間巡視の際にざっと確認したり、実際に生徒を指名するという手段になりがちで、時間と空間の限界によって全員の意見を一度に把握することが困難であるが、Forms を活用することで、一人一人の意見を教員が確認し、様々な意見、かつ自分では発言しないが、良い意見を持っている生徒の気づきを全体に共有できることはこの「授業」スタイルの長所であった。

**(3) 3年英語 (Core クラス) 担当：小林 万純**

3年生の英語 Core クラスは、教科書の授業と True Stories を使用したインプット・アウトプット中心の授業がある。本授業は後者であり、いかに英語に4技能を活用しながら触れられるかを重要視してオンライン授業を作成した。

週2回の授業なので、通常であれば授業時間と課題の時間を含めて4時間程度と想定した。図4のように、全8回、毎回パワーポイントで授業を進め (True Stories と The Secret Garden を含む)、授業終了後には Review Quiz を Forms を使用して実施した。具体的には以下の通り。

SCHEDULE (tentative) もちろん、どんどん先に進めてオッケーです!				
day	PowerPoint (授業の流れで学習を進める)	Easy True Stories	The Secret Garden (Book)	Review Quiz
0	フォルダ内 0_introduction.pdf と 0_prepare.ppsx をよく読み、準備をする。	2年生に使用していた本を用意。	フォルダ内の pdf を見られるか確認。印刷してもよし。本は学校に到着済。	△ 入力 check
1	Day1.ppsx	Unit 10	Chapter 1 Reading Log 開始	○
2	Day2.ppsx	Unit 11	Chapter 1 終了→小テスト	○
3	Day3.ppsx	Unit 12	Chapter 2 Reading Log 開始	○
4	Day4.ppsx	Unit 13	Chapter 2 終了→小テスト	○
5	Day5.ppsx	Unit 14	Chapter 3 Reading Log 開始	○
6	Day6.ppsx	Unit 15,16	Chapter 3 終了→小テスト	○
7	Day7.ppsx	Unit 17,18	Chapter 4 終了→小テスト	○
8	Day8.ppsx	Unit 19,20	Chapter 5 終了→小テスト	○

図4：スケジュール

1. 授業パワーポイント：スライドを作成し、音声を入れて動画にした。ppsx ファイルとアップしたお知らせを Microsoft Teams の英語 Core クラスのチームで行い、そこに Microsoft Stream にアップした動画のリンクを貼った。Day 1 と 2 は 40 分程度、Day 3 からは 20～25 分程度を作成した。4 技能を育成するため、声を出す活動や音声を聞く機会を盛り込んだ。  
 <Day1 の例> 歌 (解説、歌唱) → True Stories (単語、内容理解、音声確認) → 辞書活動 → トラブルシューター (読解、内容理解、単語、作文) → 多読 (イントロダクション、解説、Reading Log)

2. 課題：Forms でクイズを提出。Teams の課題からアクセスし、解答。各 5 点～10 点程度の問題で、合計 50 点～100 点程度を出題。自動採点されるが、記述のものは模範解答と照らし合わせて各自で答え合わせ。オンライン授業中に作成した Reading Log や記入したジャーナルは休校期間が開けたら提出。

3. Zoom を利用した同期型授業：Day8 まで終了したのち、2 回にわたって 25～30 分程度の同期型授業を実施。図5と6の通り。

教師も生徒もビデオをオンにし、必要に応じてブレイクアウトルームやミュート解除による発言をする形式にした。終了後、録音動画を Microsoft Stream にアップし、参加できない生徒のために共有した。

<1 回目> 3 分のウォームアップ (Simon Says) → ペアトーク 9 分 → 多読の本について (The Secret Garden) 10 分 → 課題説明と質疑応答 3 分

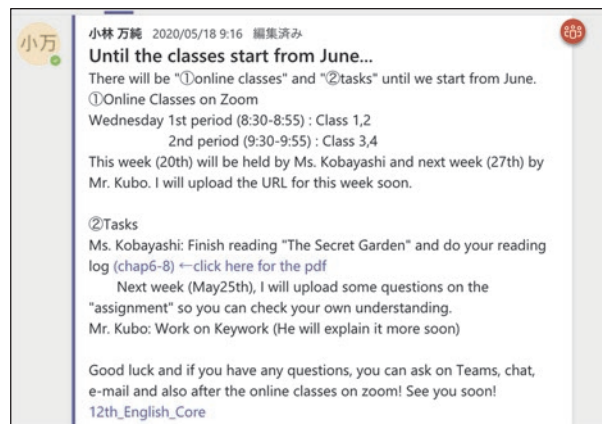


図5：Microsoft Teams の投稿 (Zoom 授業について)

#### ・技術的な課題点

家庭によって環境に差が出る。学校でデバイスやネットワークを支給していないため、スマートホンのみ所持している家庭や、保護者の仕事が終わってから PC が使える家庭など、制限があった。よって、Zoom など同期型の授業にデバイスや家庭の状況によって参加できないという状況であった。それでもな

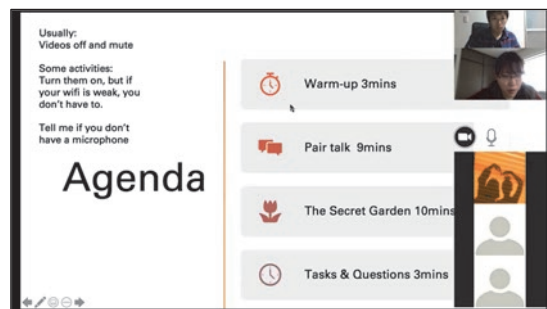


図 6 : Zoom 授業の様子

ぜ最後は配信型から同期型にシフトしたのか。それは想定していた以上に、生徒個人にかかる学習の負担がオンラインでは顕著だったからである。それは後ほど説明したい。その他技術的な面では、動画のアプリやソフトウェアもパソコンによって対応しているしていないの差があり、音声が入っているパワーポイントの共有する形式も pptx、ppsx、mp4 など、複数の形式での出力をする必要があった。また、書き出しの際のエラーや音声吹き込みのエラーなども多々あり、授業を実際に準備・実施する場合と比べて 5 倍以上の労力を要した。その反面、生徒はどれが課題なのか、どこをクリックすれば良いのか、課題が出されたのかどうなのか、という操作面と情報伝達面で混乱がオンライン上では生じた。様々なところにリンクを載せてアクセスしやすくし、多様な機種に対応する工夫を行ったところ、リンクが多い分どれが課題なのか明確でなくなってしまうことが課題となった。

#### ・負担感の課題点

実際の授業を想定して Day1、2 は 40 分程度の授業動画を用意した。普段は 50 分授業でそれにプラスして自宅で課題を行っているため、絶対的に学習の量は少ないにもかかわらず、生徒の負担感は大きかった。自主的に学習する習慣や集中力が続かない生徒と、情報機器に慣れていない生徒は自らそれに取り組むという時点でかなりハードルが高かったみたいだ。授業に出れば否が応でも学習は進んでいくが、オンラインは生徒自身が開始させて自主的に確認テストまで行わなくてはいけないため、負担感が大きい。

また、驚くべきことに、真面目な生徒ほど終わらないという特徴もあった。自主的にノートを作ったり、聞き直したり、時間を多くかけてしまい、課題に取り組んでいるのに「やってもやっても終わらない」という現象に陥ってしまうのである。

Day3 からはそのフィードバックを受け、20 分程度の動画にし、内容も大幅にカットした。やはり学校で仲間とその場で一緒に学習を進める、ということがいかに効率的なのか、授業を進めて、情報量を確保し、やりとりをしながら英語力を向上させるにはオンラインだけでは課題が残ることがわかった。

#### (4) 3年英語 (Core クラス) 担当：久保 達郎

本授業は、文部科学省の検定教科書「TOTAL ENGLISH 3」を用いて、週 2 時間学習を行うものである。教科書の題材をベースとして、関連する教材等にも取り組み、学びを拡張していく点に特徴が見られる。

オンライン授業期間 (4～5 月) では、学習習慣を確立させることを念頭に置いて授業計画

を練った。生徒たちにとって、新型コロナウイルスの感染拡大という未曾有の出来事の中で、今までに経験したことのないオンライン授業（学習）に、継続的にかつ効果的に取り組むということは至難の業であると考えていた。もちろん、オンライン授業は外国語科の授業ばかりではない。他教科との学習とバランスを取りながら自己管理をして学びを継続させていくことが生徒には求められ、教員にはそれを支援していく手立てを講じる必要性があった。2年次の2月末～3月も学校が休校であったため、その期間の分の学び残しについてはどうするべきか、という懸念事項もあった。

そこで本授業では、週に2回（原則、月曜日と木曜日）に教科書内容についての教材（Power Point ファイル）を独自に作成し、Microsoft Teams を介して生徒に配布した。1回あたりの学習時間は1時間～1時間30分を想定して作成した。普段の対面式の授業では、原則すべて英語で授業を進めている。しかし、生徒が各自で学習を進めるということを鑑みて、文法事項や新出語彙について、日本語で説明や補足を行い、なるべく理解を促すように教材を作成した。ペアワークやグループワークといった学び合いの学習がやりにくい分、題材に関連する動画を見たり、新聞記事を読んだりといった活動に多く時間があてられるように工夫した。今になってみれば、ZOOMなどのオンライン会議ツールを用いて、グループディスカッションなどに取り組むことも可能であったと振り返っている。

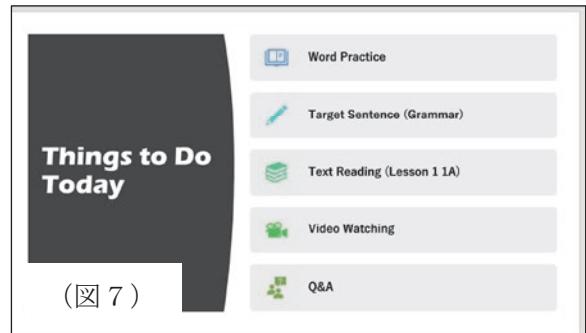
生徒が各自のペースで学習を継続できるという利点もあれば、生徒によっては学習から離れてしまうという心配もあった。そこで、学習した内容について Microsoft Office の Forms で小テストを課し、フィードバックを与えることで、少しでも教員と生徒が交流を持つことができるようにした。小テストの成績よりも、取り組みの頻度を重視し、取り組みが芳しくない生徒に対しては Microsoft Teams のチャット機能などを用いて個別に対応した。授業担当者は今年度から当該学年を担当することになったため、生徒理解が不足しているという側面もあった。それを少しでも解消すべく、生徒に自分自身のプロフィールシートを作成し、提出してもらうことで生徒理解にも努めた。

以下に授業のスケジュールを示し（表2）、実際に使用した教材のファイルや小テストを簡単に紹介したい。

表2 スケジュール

Day	Power Point	Grammar
1	自己紹介の仕方、プロフィールの作成	動名詞①
2	Pre-Lesson	動名詞②
3	Lesson 1 ①	不定詞①
4	Lesson 1 ②	不定詞②
5	Lesson 1 ③	比較級①
6	Lesson 1 ④Review	比較級②
7	Lesson 1 ⑤	受動態①
8	日本の伝統文化を紹介しよう	受動態②
9	Zoom ディスカッション	なし

表2のスケジュールに沿って、授業を行った。生徒が各自で学習を進めていくことを念頭に置き、通常の対面の授業よりも細切れに計画し、授業展開のスピードも緩やかに設定した。Day 1では、初回の授業ということもあり、教科書内容を進めるというよりは、アイスブレイキングの内容を取り入れ、生徒にプロフィールシートを作成してもらった。



(図7)

Day 2～Day 7は図7のように、語彙の確認→ターゲットセンテンスの確認（文法）→

本文読解→関連動画視聴→動画の内容に関するQ&Aという流れで授業を進めた。

教科書の本文だけでは、英文量が不足するとも考えられたので、本文に関連するような題材を提供し(図8)、それに関する簡単なクイズなども出題し、内容理解を促した。教科書本文に関連する内容とは言え、生徒が自分の力で読み進めることを考えると、なかなか歯ごたえのある活動だったと感じる。対面の授業ならば、ペアワークなどで内容確認ができるが、画面越しではわからないことがそのまま放置されてしまう可能性もある。自分で学習を進める更なる仕掛けづくりが不可欠である。



(図8)

休校期間中は外国語科のみならず、多くの科目でオンライン授業が行われた。通常の対面授業でも、課題量の偏りが生じたり、課題の提出時期が重なったりと、教員側の横のつながりが取れていない場面に直面することがある。オンライン授業では、それを一層加速させてしまったような印象がある。生徒の自己管理に任せっきりになり、課題の消化不良を起こしてしまったのではないかと反省している。新型コロナウイルスの影響が少なくなっていくても、オンライン授業は一定の地位を得るだろうと考えられる。その時に、教員間で生徒の時間を奪い合うことのないように、コミュニケーションをとって横のつながりをより強固なものにしていかなければならない。

#### (5) 4年フランス語 担当：前田 健士

本校では4・5年生でそれぞれ週2時間、選択科目として第二外国語（フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、韓国・朝鮮語）の授業を開講している。本稿ではそのうちのフランス語のオンライン授業の実践例を述べることとする。

##### ・授業概要

4年生のフランス語の授業は、初めてフランス語を学び始める生徒を対象とした入門フランス語の授業である。テキストは「FLASH！」（駿河台出版社）を使用し、学習内容に合わせて



作成したプリント教材を併せて使用している。授業ではパワーポイントを使用し、単語・表現・文法を学習するインプット活動から、ペア・グループ練習、発表を繰り返し行い、生徒のアウトプット活動へとつながる授業を展開し、フランス語入門レベルの4技能の育成を目指している。

・オンライン授業期間

毎週金曜日、週に1回、全6回分の授業に相当するパワーポイント・テキストの音声データ・プリント教材をMicrosoft Teamsにアップロードし、自分のペースで生徒が課題を進める「非同期型オンライン授業」を実施した(表3)。

Leçon	PowerPoint	Texte	課題
1 <sup>ère</sup> Leçon	Introduction	Leçon 0-Découvrez !	・PowerPoint(動画)を見ながら練習 ・課題確認QUIZ(Forms)
2 <sup>e</sup> Leçon	Alphabet アルファベ Graphie et son つづり字と発音	Leçon 0-Alphabet	・PowerPoint(動画2本)を見ながら練習 ・プリント"Leçon 0_graphie et sons"
3 <sup>e</sup> Leçon	Leçon 0 Dialogue 会話	Leçon 0-DIALOGUE	・PowerPoint(動画)を見ながらDIALOGUEの練習 ・Texte_Exercice(p.11)
4 <sup>e</sup> Leçon	Leçon 0+a_Salutation あいさつ		・PowerPoint(動画)を見ながら練習 ・プリント"Leçon 0+a_Salutation"
5 <sup>e</sup> Leçon	Leçon 1_nationalité 国籍	Leçon 1-Je suis étudiant	・PowerPoint(スライド)を進めながら練習 ・プリント"Leçon 1_nationalité"
6 <sup>e</sup> Leçon	Leçon 1_profession 職業	Leçon 1-Je suis étudiant	・PowerPoint(スライド)を進めながら練習 ・プリント"Leçon 1_Masculin et Féminin" ・プリント"Leçon 1_profession, ne~pas"

(表3)

・パワーポイント教材

初めてフランス語の学習を始める生徒が対象ではあるが、英語を学習しているため、中国語や韓国・朝鮮語と違い、フランス語特有のアクセント記号はあるものの、文字の学習から始める必要はない。よって初めてのフランス語学習は、まず音声に慣れ親しむ事が重要と考える。オンライン授業期間中のパワーポイント教材を作成する上でも、まずは音声によるインプット・アウトプット活動を促す形式にし、テキストやプリント教材を補助教材として使用することにした。オンライン授業終了後の通常授業と同様の授業スタイルを意識し、パワーポイントのスライドに音声を録音して動画、またはスライドとして生徒が自分のペースで学習を進められる教材を作成した。

内容は上記(表3)の通り、アルファベの読み方、つづり字と発音、簡単な自己紹介の会話、あいさつ、国籍、職業の基本的な内容を学習し、自ら発話できることを目標とした。動画・スライドでは、教員が日本語で一方向的に説明するのではなく、文字と絵・写真を多用しながら、フランス語による指示に従って単語・発音・表現を反復練習し、最後には日本語の意味や絵に合わせて発話の自主練習ができるスライドも取り入れた(資料1・2)。



(資料 1)



(資料 2)

・提出課題について

第 1 回目の授業 (1ère Leçon) では、テキスト« Leçon 0-Découvrez ! »の「フランス・フランス語に関する基礎知識」の練習問題を Microsoft Forms で作成し、クイズに答える形式で回答することを課題に設定した (資料 3)。また、生徒自身についての「フランス・フランス語」に関する知識、学習歴、興味・関心、学習への意欲を問う質問を、同じく Microsoft Forms で作成し、回答することを課題とした。



(資料 3)

2 回目以降のパワーポイントによる動画またはスライドを使用した学習については、「非同期型オンライン授業」として課題をアップロードし、生徒自身のペースで学習に取り組む課題とした。質問がある場合には、チャット機能を使用して個別に対応した。配信したプリント教材類についても、特に提出を義務とはせず、アップロードした課題や教材への取り組みの状況は、Microsoft Teams の「課題」で各生徒が閲覧したかを確認する、または投稿欄で閲覧し

たことを示すスタンプを押すことで確認し、反応がない生徒に対しては、チャット機能を使用して個別に対応するのみにとどまった。

・「非同期型オンライン授業」の課題点

まずは教員側の IT 学習ツールに対する知識とスキルが必要不可欠である。通常授業で使っているパワーポイント教材を、独学で学べるように音声を録音し、スライドに工夫を加える作業だけで多くの時間を費やす結果となった。今回実施した「非同期型オンライン授業」では、視覚教材を多用し、音声を録音したパワーポイント教材を配信したのみであったが、初めてのオンライン授業に慣れていない生徒や、多くの他教科の課題に取り組む生徒にとって、生徒が自分のペースで学習を進められ、繰り返し練習ができる点は効果的であった。しかし教員側は生徒の理解度や学習進度を把握することができず、生徒にとっても、教材はあっても、初めて学ぶ外国語を独学で学ぶ困難さは大きな負担であったと考えられる。対面授業再開後に、オンライン授業期間の課題を初めから復習することで、オンライン授業期間中の学習を補完する結果となった。外国語の 4 技能向上のためには、オンラインであっても、教材の配信のみにとどまらず、対教師または生徒同士でインタラクティブに外国語学習に取り組める環境に近い双方向型のオンライン授業の実施や、課題の提出・添削や小テストの実施を取り入れることが有効であり、今後の課題である。より効果的なオンライン授業を実践するためには、IT 学習ツールを利用できるだけの知識とスキルを獲得することが、教員にとって重要だと考える。

**(6) 5年 DP ・ Language A 担当：スミス ベン**

DP English A: Language and Literature HL is a 2-year course which addresses language in its many mediums as well as literature. We learn to analyze text types ranging from ads and articles to letters and lyrics. We also examine 6 major literary works.

During April, I gave out online assignments as I tried to get a sense of our COVID measures and what would be possible or necessary to accomplish with students during the lockdown. We started online classes in May, meeting twice a week for approximately an hour each session. I introduced the course to the students, then we discussed readings from our literary works and related videos which they were assigned to read or watch.

The online classes were valuable for moving forward and doing what we could so that the time was not wasted. But there was minimal interaction in class, as students seemed reticent towards me and each other, and there was no interaction at all between the students despite my encouragement.

**(7) 6年コミュニケーション英語総合 担当：徳 初美**

・本授業について

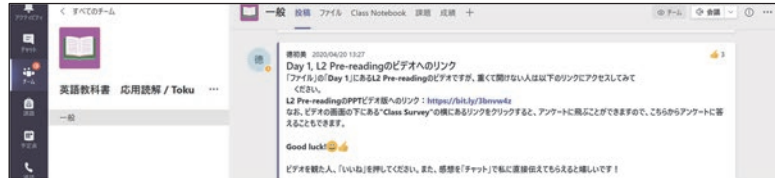
6年生コミュニケーション英語総合は5クラス展開となっているが、本稿では教科書応用クラスのオンライン授業（4・5月）について述べる。使用教科書は『Crown English Communication III New Edition』（三省堂）である。履修している生徒は20名で様々な背景があり、英語力は一様ではないが、全体的に英語学習に対するモチベーションは高い。授業は、各課ごとに導入、語彙の確認、読解活動、発展学習のパターンで進めたが、学習方法は各レッスンのトピックにより異なる。なお、教科書をベースに発展学習を取り入れるため、全ての課を順番に進めるのではなく、トピックが多様になるように考え、担当教員が選んだ課をカバーした。

・オンライン授業・学習

週1日2時間連続の授業となっているため、オンライン授業でも週1度2時間分を原則に学習を進め、全7回実施した。主な学習材料としては、パワーポイントスライド及びワードファイルをOffice365のTeamsを介して提供した。内容は、学習のガイドライン、ボキャブラリーリスト、読解用のワークシートが主なものであるが、個人でもスピーキング活動ができるようにするために、パワーポイントをビデオにし、Office365のStreamにアップロードしてTeamsにリンクを張った。そうすることで生徒はビデオの指示に従い、スピーキング練習をすることができたわけである。ワークシートについては、自宅にプリンターが無い生徒がいることを想定し、PCやスマートホンの画面を見ながら生徒個人が準備したノートに解答を書くことができるようにした。定着度の測定については、Office365のFormsを使い、ボキャブラリーテストを受けられるようにした。発展学習としては、2か月で2課進めたため（\*進度はこれまでの学年と同じになるようにあえて組んだ）、Zoomを使ってオンラインディスカッションを2度（\*1度目は5月1日、2度目は5月22日）実施した。なお、オンライン授業中の課題は評価

の対象とはしなかったが、休校明けの試験の範囲には入れることを伝え、休校明けに全て復習しなおして評価活動を行った。

図9. Microsoft Teams 投稿例（ビデオへのリンク）



・オンライングループディスカッション

事前に出席の可否を Teams のチャット機能及び Office365 のメール機能を使って調査し、グループングをした。出席の可否に関わらず、ガイドライン及びワークシートは全員に提供し、Teams の投稿機能を使って Zoom ミーティングの招待を出し、飛び込みの参加もできるようにした。2 回とも授業開始時に改めて出欠状況を確認し、参加人数が少ない場合はグループを組みなおした。また、授業内容や流れは事前に示してあったが、再度確認してからディスカッションに移った。当日参加できない生徒のために 2 回とも録画し、Stream にビデオをアップロードして視聴できるようにした。また、パワーポイントのスライド及びワードファイルにまとめを載せてデータを Teams にアップロードし、参加してもしなくても内容を再度確認して復習できるようにした。

第1回：5月1日

Lesson 2 “God’s Hands”の発展学習という位置づけだったが、この課は医師の仕事に関する内容を取り扱っているため、生徒たちには医師の資質や医療倫理について意見交換をしてもらった。流れは、①グループディスカッション（\*他のグループの生徒はマイクとビデオをオフにして観察しながらコメントを準備）、②振り返り（ディスカッションをしたグループ自身→オーディエンスからディスカッションをしたグループへ→授業担当者から）をグループの数だけ繰り返す、最後は教員がまとめる、とした。ディスカッションリーダーを事前に指名していたので、ディスカッション中は教員は介入しなかった。本校では1年生から授業や学校生活の至る場面で考えて意見を発表するということが日常的に行われていることもあり、オンラインという慣れない環境ではあったが、意見発表は全員できた。しかし、意見交換となると画面だけでは分からない互いのタイミングをつかむことの難しさ、緊張を強いられた中でのデバイスの操作の難しさ、などあり、活発に意見交換をする、といった段階には至らなかった。

図10. 当日のタイムライン

3. Timeline	
<b>Session 1</b>	
Group 1	10:45 ~ 10:53 (8 min.) Discussion
	10:53 ~ 10:55 (2 min.) Reflection *Each member
	10:55 ~ 10:57 (2 min.) Comments *From Group 2
Suggestion from Toku	
	10:57 ~ 11:02
Group 2	11:02 ~ 11:10 (8 min.) Discussion
11:10 ~ 11:15 5 minutes break	
3. Timeline	
<b>Session 2</b>	
Group 2	11:15 ~ 11:17 (2 min.) Reflection *Each member
	11:17 ~ 11:19 (2 min.) Comments *From Group 1
Group 3	11:21 ~ 11:29 (8 min.) Discussion
	11:29 ~ 11:31 (2 min.) Reflection
	11:31 ~ 11:33 (2 min.) Comments
Group 4	11:35 ~ 11:43 (8 min.) Discussion
	11:43 ~ 11:45 (2 min.) Reflection
	11:45 ~ 11:47 (2 min.) Comments

第2回：5月22日

Lesson 4 "Does Money Make You Mean?"の発展学習として、経済格差やお金が人にもたらす影響といったことについて生徒たちに話し合ってもらった。取り扱う内容が濃くなり、より深く考える必要が出てきており、1回目と同じ時間配分では時間内に収まらないことが分かっていたため、授業の構成を以下のように変えた。①ブレイクアウトルームに分かれてグループディスカッションを行い、全体に戻った後で教員が何人かの生徒をランダムに当てて意見を吸い上げる、②グループディスカッション（\*ディスカッションクエストが多かったため、グループによりお題が異なる）、③教師によるまとめ。1回目では要領が分かったので、さらに対面の授業に近づけるために、ブレイクアウトセッションを取り入れ、教師は各グループのディスカッションの様子を覗きに行くようにしたが、雰囲気や進め方はグループにより異なった。英語力の差、生徒の性格、生徒間の普段からの関係性、など複数の要因が影響しているものと思われる。しかし、活動していないグループは無く、どの生徒も試行錯誤しながら参加していた。

・直面した課題

学習材料を提供する教員も学習者である生徒も不慣れであったため、課題の適切な分量や提示の仕方、連絡の取り方、など一つ一つクリアにする必要があった。対面で授業をするのとは違い、その都度全体で確認することができないため、丁寧に説明を入れたつもりでも指示が明確でなかったり、各自が一人で学習するには分量が多すぎたり、と試行錯誤であった。一番危惧されたのはオンライングループディスカッションが成り立つのかどうかであったが、生徒は画面上ではあっても同級生の顔を見て、一緒に活動することに喜びを感じたようで、事前準備のワークシートには伝えたい意見や考え、自分で調べたことを書き込んで臨んでいたということが分かり、授業者としてはやりがいを感じた。しかし、全ての生徒が自分専用のPCがあるわけではなく、スケジュール調整や技術面の問題で参加できない生徒もあり、課題は残された。困難なことがあっても何とかオンラインディスカッションを実施できたのは、対象が6年生（＝高校3年生）で学力や精神面の成長が伴って

図1 1. Zoomによるオンライングループディスカッションの様子を Microsoft Stream にアップロードした画面

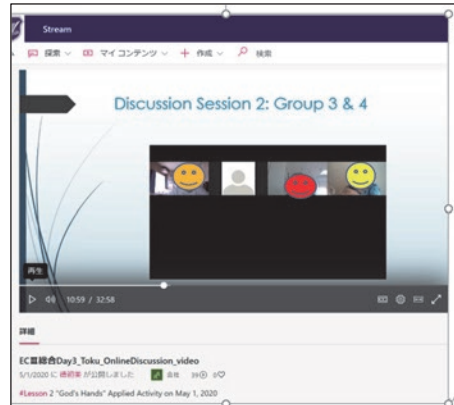
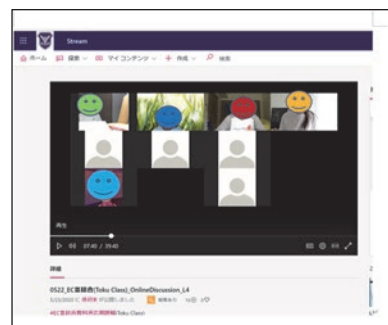


図1 2. 当日のタイムライン

3. Timeline 11:30 ~ around 12:10	
1. Attendance Check & Organizing Groups, Introduction	11:30 ~ 11:40
2. Step 1 Discussion between Class & Toku (2 minutes)	11:41 ~ 11:43
3. Step 2 Group Discussion Sessions	11:44 ~ 11:49
G1 (2 minutes) ⇒ G 2 (2 minutes) *camera & mike ON	
G3 ~ 5 listen to the sessions as audience *camera & mike OFF	
4. Step 3 DQ① Group Discussion Sessions	11:50 ~ 11:57
Group 3 (2 minutes) ⇒ Group 4 (2 minutes) ⇒ Group 5 (2 minutes)	
5. Step 3 DQ② Group Discussion Sessions	
Each group will get into Breakout Rooms 1 ~ 5.	
① Group Discussion (3 minutes)	11:58 ~ 12:02
② Facilitators in each group share the results with the class, if time allows	12:02 ~ 12:07
6. Comments from the teacher & Announcement	12:08 ~ 12:10
7. Sing "Heal the World" together, if time allows	

図1 3. Zoom ブレイクアウトルームを使ったグループディスカッションの様子をビデオにして Microsoft Stream にアップロードした画面



いたこと、生徒同士の関係性が築かれていたこと、授業者は本授業の履修者である生徒たちのほとんどと面識があって授業などを介して見知っていたこと、といった要因があり、これらの条件が整わなければ成り立たなかったのではないかと考える。限られた時間の中で、オンラインディスカッションを実施するためには入念に準備することも必要で、頻繁にできることではないことも痛感した。

・今後に向けて

対面での授業と比べると、生徒にとっても教員にとっても負担は大きく、特に話す力を伸ばすのは難しいと感じた。しかし、新しい形の授業スタイルを取り入れることができたので、決してマイナスではなかった。コロナ禍の影響を受け、オンラインツールを用いての説明会やイベントが日常の一部になってきたことを考えると、生徒のニーズにこたえるためには授業を工夫して、より実践的な活動を取り入れられるようにする必要があると考える。

**(8) 6年 DP English B HL 担当：小松 万姫**

授業の概要説明

DP English B は外国語としての英語の能力を伸長し、英語圏の文化を理解する授業である。アイデンティティ、経験、人間の創造性、社会組織、地球を共有する、などの5つのテーマを題材にした文章に触れる。また多様な形態の文章を読んだり書いたりすることを目指す。さらに文学作品を2作品読み、それについてディスカッションする。こうした活動を通じて、コミュニケーションとは何かを考えていく。DP は2年間のプログラムなので、6年 DP English B はDP2年目の生徒を対象に行っている。

以下の表は DP の評価課題をまとめたものである。

表4 DP 英語 B 最終課題内容

IB Diploma Program English B 試験内容概略 (2020年11月試験)			
themes: identities, experiences, human ingenuity, social organization, sharing the planet.		Concepts: Audience, context, purpose, meaning, variation	
Literature: Animal Farm, The Hate U Give			
		時間	内容 5つのテーマと関連した題材
External Assessment 外部評価	Paper 1 writing ペーパー1 筆記問題 (30点満点)	90分	Choose one title in 450~600 words with the most suitable text type 1題 450~600字 指定された状況に関して最も適したテキストタイプを選択して書く
	Paper 2 Reading comprehension 第二部 長文読解 (40点満点)	60分	3 reading comprehension 3種類の文章の読解問題
Internal Assessment 内部評価 (学校にて評価)	Individual Oral 口頭試問 (30点満点)	12-15分 準備時間20分	Explain and discuss about one of the two excerpts Connect your discussion with the 5 themes 授業で読んだ2文学作品の抜粋文について説明及び議論をする 5つのテーマと関連付ける

②休校期間中のオンライン授業

DP English Bは11月の試験が予定されているものの、どのような形で最終試験が行われるのかは不透明なままオンライン授業を開始した。このオンライン授業では2学期当初に最終試験を行う予定だった2冊目の文学作品アンジートーマス作の『ザ・ヘイト・ユー・ギブ (*The Hate U Give*)』をとりあげ、ディスカッションの中で作品のテーマに関する自らの考えを伝える活動を行った。

③実践例の紹介

オンライン授業は概ね1週間のうち1時間ずつ2回行った。週の1回目のオンライン授業では事前に読んできた箇所の内容を確認した。そこで内容確認と共にテーマに関して話し合った。その後生徒は小説の抜粋部分に関する3,4分のプレゼンテーションを録音し、他の生徒たちと共有をした。3,4分の中には実際の口頭試問を模して抜粋部分の状況を要約と本文における抜粋部分の位置づけ、そして自分の思ったことを盛り込むようにした。2回目の授業ではこの録音内容を踏まえながら小説のテーマについて話し合った。オンライン期間中この録音作業を9回ほど行った。また最後にはこれまで話し合った小説のテーマをDP英語Bの5つのテーマにつなげるディスカッションを行った。

図14 録音課題の例

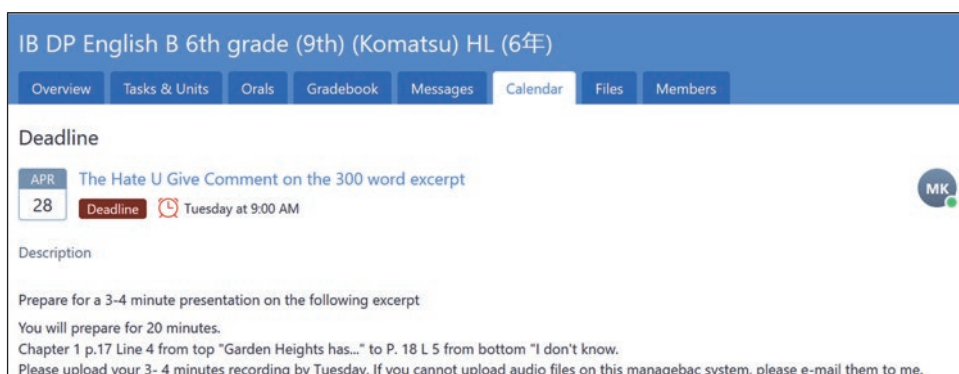
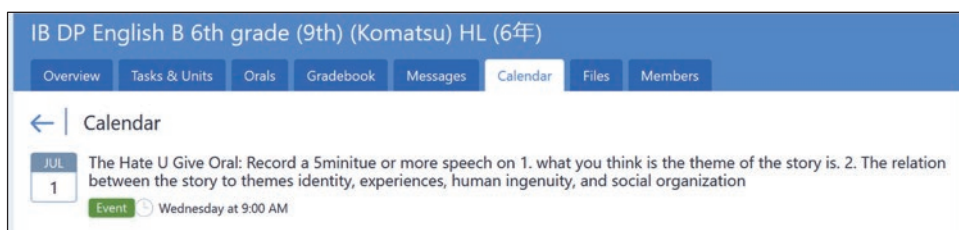


図15 最終ディスカッション課題



④実践を振り返って

以上のように、休校期間中はオンライン授業と録音を組み合わせることで小説を読み、自分の考えを伝えられる練習を行った。オンライン授業は普通の対面授業に比べて自由な発言がしにくく、教員の一方通行の講義になりがちになってしまうなど制約があった。ただ良い面もあった。こ

のオンライン期間後、生徒はオンライン授業前と比べると格段によどみなく、多様な表現を加えて自分の考えを説明することができるようになったと感じた。これは繰り返し発表を録音したことによる成果と推測できる。また生徒たちはオンラインでクラスメートの音声を聞くことによって刺激や影響を受けながら課題に取り組むことができたと話していた。この実践は必要に迫られて行ったものであったが、その結果、プレゼンテーションの練習を繰り返し行うことの重要性も明らかになった。これはオンライン授業期間から得たもののひとつである。

## おわりに

それぞれの学年や習熟度に合わせたオンライン授業はメリットとデメリットが顕著となった。

低学年、初級段階だと音声のインプットをベースにする必要があるため、動画配信が多く実施された。繰り返し見られるというメリットがあったものの、一方通行の要素が多いため、理解度の確認やスキャフォールディングが出来ないことが課題となった。

ある程度言語習得が進んでいる段階だと理解度の確認をクイズなどで行えたため、双方向性を少し出すことができた。ただ、授業で実施している内容をそのまま生徒に出すと負担感が大きすぎるため、学習内容を制限せざるを得なかった。それでも、個人での学習習慣がついていない生徒や、一つの課題に想定時間以上をかけてゆっくり丁寧に学習しようとする生徒には合わなかった。普段の授業なら優秀である生徒が、方法がオンラインになっただけで未提出になってしまうという問題につながった。

高学年では双方向型のディスカッションも実践した。テーマを決め、それに関してオンライン上でディスカッションするというものである。すべての生徒が参加できるわけではなかったが、参加できた生徒は顔を見ながら話すコミュニケーションの良さを再認識した。中学生の一部の授業でも双方向型を行ったが、顔を見て話すことが生徒の安心と動機づけにもつながった。

これらの実践をもとに、対面の授業でしか出来ないこととオンラインで有効なものを効果的に使い分けながら、生徒と教師にとってコロナ禍をプラスの学びに繋げていきたい。

## 参考文献

Emmanuel ANTIER, 三上純子, Michel SAGAZ. 『FLASH!』(駿河台出版社). 2020年

During the COVID-19 pandemic school closure, the foreign language department in Tokyo Gakugei University International Secondary School conducted various online classes in order to keep the learning going. We faced issues regarding differences in school age, language proficiency and technology access. It was more necessary for beginners to have plethora of auditory input, whereas students in higher grades needed time for meaningful discussion. The online learning also became an obstacle for students who have difficulty in self-directed learning as well as students who are eager to learn and spend too much time doing one task. We will utilize our learning from these teaching practices for our future improvements.